

2025（令和 7）年度

日本大学法学部一般選抜

A 個別方式

第 1 期

【試験問題の出題意図】

国語

「現代の国語、言語文化（漢文を除く）」

現代文2題（ⅠⅡ）、古文1題（Ⅲ）を出題した。大問ⅠⅡⅢの全てに、文章の部分的な意味を問う設問、並びに文章全体の内容に関する正誤を問う設問の両方を出題した。また、大問ⅠⅡⅢのいずれかにおいて、実社会で必要な語句の意味・用法・表記に関する設問と、古典の世界に親しむために必要な語彙や文法のきまり、我が国の文化の中での特質に関する設問を出題した。

- Ⅰ 現代短歌の詠出と鑑賞ならびに評論に関する総合的な大問 出題文は、投稿された現代短歌を歌人である著者が鑑賞しつつ論評し、併せて自己の作品の詠出過程を披歴した文章。我が国の言語文化を扱った鑑賞文・評論文を、与えられた情報をもとに正確に読解できているかを試す意図で出題。書くこと・読むことに関する記述式問題を含む点が特徴的といえる。
- Ⅱ 実社会で問題となっている戦争・暴力などを扱った評論に関する総合的な大問 出題文は、現実の社会で刻一刻と変化している世界情勢に関する、文化人類学者の手になる文章。先行する著作や言説と著者の見解との異同を正確に理解できているかを試す意図で出題。本文中に記載された内容の理由・説明を多く問う点に特徴がある。
- Ⅲ 江戸時代の大名家の歴史・伝記を記した文章に関する総合的な大問 単なる事実の羅列ではなく歴史上の人物の心理描写が巧みに表現されている文章に関して、古典独特の語彙・表現・言葉のきまりなどの基本から、様々な説明を問う応用まで幅広く試す意図で出題。簡潔で平易な文章であるが、その叙述から登場人物の心理を読み解く必要があり、それにかかわる理由・説明・原因を問う設問を多く出題している点が特徴的といえる。

大問 I（長文読解・語彙理解問題）

出題意図：

この設問は、英語によるコミュニケーションにおける「読むこと」の領域を中心に、語彙・表現・文法の知識を活用して的確に情報を理解する力を問うことを目的としている。特に「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動」を通して育成される資質・能力（高等学校学習指導要領 外国語 第8節 第1款（1）（2））に対応している。

また「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」の「思考力、判断力、表現力等」に関する能力、すなわち情報を整理して論理的に読み取り、語の意味や文脈を適切に解釈する力も問われている。

大問 II（データ解釈問題）

出題意図：

この設問は、英語で表現された統計資料やグラフを読み取り、数字や傾向を正確に理解する力を問うものである。これは「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」における「読むこと」の領域、特に「社会的な話題」について、「必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える」力を育成することを目的としている。

大問 III（会話文空所補充問題）

出題意図：

この設問は、実際のコミュニケーション場面を想定し、「話すこと[やり取り]」領域における即時的な応答力を問うものである。「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」で定められている「話すこと[やり取り]」の目標（例えば、「日常的な話題」についてやり取りを行い、「情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取り」を行う活動）に対応している。

加えて、論理的な展開を意識しつつ、自然な表現を組み合わせる能力を求めており、「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」の実践的な言語運用能力の涵養も視野に入れている。

大問 IV（文法・語法問題）

出題意図：

この設問は、基礎的な語彙・表現・文法事項を、実際のコミュニケーション場面で正確に活用する力を問うことを目的としている。特に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」の「知識及び技能」を体系的に定着させることを狙っており、これらの知識が「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」に適切に活用できるかを評価する。

大問 V（整序問題）

出題意図：

この設問は、英語の語順や論理的な構成について理解し、正しい文構成する力を問うものである。「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」における「論理の構成や展開及び表現」についての理解と実践を促すことを目的としている。

特に、文を組み立てる際の論理的思考、語彙・文法の統合的運用を評価し、「情報を整理しながら」、「論理的に表現する力」を養う指針と深く関連している。

日 本 史

「歴史総合，日本史探究」

I 古代・中世の史料に関する大問。各史料が指し示す歴史的事象について、関連する人物・事柄に関する基礎的知識を問う問題として作成されている。それだけではなく、年代整序や史料の字句そのものについて問う設問も交えることで、これらの史料を歴史的流れの中で位置づけて理解できているかを問うている点も重要な特徴と言える。

II 近世の政治を中心とした大問。織田信長、徳川綱吉、寛政の改革に関する基礎的知識を問うている。特に正文選択問題と正誤問題では、各人物の特徴や政策内容、当時の社会状況を踏まえながら、歴史の流れが理解できているかを問う問題とした。

III 近代および現代の経済に関わる歴史を、国際情勢と関わらせながら出題した。近代については、第一次世界大戦から 1930 年代までの経済の動向を、戦争や人々の生活との関連させた理解を問う問題とした。グラフの読み解きを通じて、多角的に歴史を考え、判断する力を問う問題を盛り込んだ。現代については、近年の学生が高度経済成長期とバブル期を混同しがちなことを踏まえつつ、今日の経済や国際関係などとながら、現代史を理解できているかを問う問題とした。

IV 「歴史総合」の学習指導要領の大項目のうち「国際秩序の変化や大衆化と私たち」に関連して、国際紛争が相次ぐ現代世界の課題を意識して、「戦争違法化の歴史」というテーマ学習を想定したリード文（スライド）を提示し、主として帝国主義の時代から第二次世界大戦後までの政治・外交・国際関係に関する基礎的理解と、歴史的思考力・判断力・史料読解力を評価するため、正誤問題や年代整序問題等で構成した。

世 界 史

「歴史総合，世界史探究」

- I 中国史に関する基礎的知識、出題された問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づく論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、中国史に関わる事象を年代に着目しながら考察する能力を問う設定がなされている。
- II 16～18世紀のヨーロッパに関する知識、出題された問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づく論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、個別の事象のつながりの理解を問う設定がなされている。
- III アメリカ合衆国の歴史に関する基礎的知識、出題された年表や問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づく論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、アメリカ合衆国の歴史に関わる事象を年代に着目しながら考察する能力を問う設定がなされている。
- IV 18～20世紀におけるアジア地域と世界の結びつきに関する基礎的知識、出題された図表や問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づく論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、諸史料から歴史に関する様々な情報を適切に読み取る能力を問う設定がなされている。

公共、政治・経済

I 日本国憲法の規定やこれが保障する種々の基本的人権の内容や関連する基本的な知識と、その応用力を問うものである。具体的には、最高裁判所による憲法上の権利に関する判例に関する学習を求める問題等がある。

II 公害や環境問題を題材として、我が国の行政組織や行政についてのルールに関する基本的な知識と、その応用力を問うものである。具体的には、環境に関する立法の歴史や、その内容を問う問題等がある。

III 現代の労働環境や家庭環境を題材として、社会保障や経済に関する社会制度に関する基本的な知識と、その応用力を問うものである。具体的には、社会保障制度の内容や、ジェンダーに関する法制度や現状についての学習を求める問題等がある。

IV イギリスのEUからの離脱（ブレグジット）を題材として、国際的な経済に関する仕組みに関する基本的な知識と、その応用力を問うものである。具体的には、国際収支の計算、為替の計算ができる能力を問う問題等がある。

数 学

I 小問 4 題、「複素数」を含む分数式の問題、「指数対数関数」に関する問題、「分散」と「二次関数」の最小値を組み合わせた問題、「命題」に関する問題によって構成されている。幅広い分野の基礎的知識と応用力を問う問題として設計されている。

II 「ベクトル」に関する大問、ベクトルの内積およびその基本的な性質についての理解を中心に、ベクトルに関する思考力、判断力と三角形（余弦定理）の理解を問う問題で構成されている。

III 「確率」に関する大問、確率に関する基本的な計算についての理解、「微分」を用いた三次関数の最大値を問う問題、条件付確率の計算方法への理解を問う基礎的な問題によって構成されている。

IV 「微分・積分」に関する大問、微分・積分に関する思考力や判断力と基本的な知識や技能の理解、および「解の係数の関係」を用いた計算方法への理解を問う問題によって構成されている。